

第1学年 道徳学習指導案

に組 男子18名 女子17名 計35名
指導者 中村 太一

1 主題名 みんながあかるく

2-(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、毎日の生活の中で、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作の大切さについて理解し、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作に心掛けようと努力してきている。しかし、恥ずかしさや無関心などから気持ちのよいあいさつをすることができなかつたり、言葉遣いが乱暴になったりすることがある。このようなことから、この期の子どもたちに、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などがお互いの気持ちをよくすることやお互いの気持ちを和やかにすることを理解させ、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作のよさを大切にしながら、明るい気持ちで生活していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、気持ちのよいあいさつができない場面で生じる心情や心情の変化を、自らの体験場面での内面と重ね合わせて類推しながら追究する活動を通して、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などの具体的な形のよさを理解し、みんなが明るい気持ちで生活するために大切にしたいことを考えながら生活していこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する生き方は、自他共に意欲的に生活していこうとすることや、互いにその人が自分の周りにいてくれることのありがたさを感じながら生活することができるようになることに繋がるというよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する生き方を追究していく学習へと発展していくことになる。

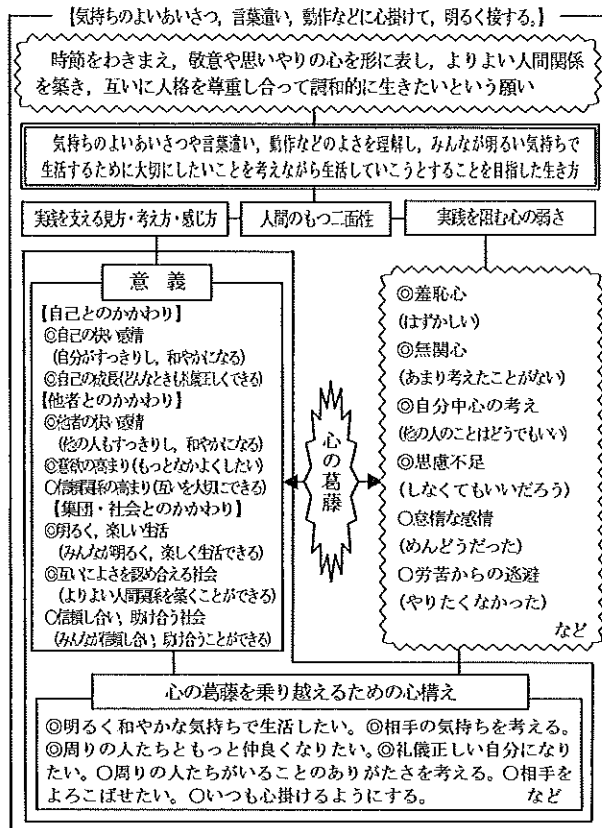
(2) 指導の基本的な立場

気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接するためには、羞恥心や無関心、自分中心の考えなどの心の弱さを乗り越えて、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などの具体的な形のよさを理解し、みんなが明るい気持ちで生活するために大切にしたいことを考えながら生活していこうとする意欲や態度が求められる。

それを支えるものが、「自他共にすっきりし、和やかになる」ことや「もっと仲良くなりたくなる」といった意義であり、「明るく和やかな気持ちで生活したい」「相手の気持ちを考える」といった心構えであると考えることができる。

ここでは気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することで、時



節をわきまえ、敬意や思いやりの心を形に表し、よりよい人間関係をつくり、互いに人格を尊重し合って調和的に生きたいという願いを基に、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などのよさを理解し、みんなが明るい気持ちで生活するために大切にしたいことを考えながら生活していこうとすることを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することが、自他共にすっきりとし、和やかになったり、礼儀正しい自分になったりすることができることや、そのことで周りの人たちともっと仲良くなりたいたいという気持ちが高まり、みんなが明るく、楽しく生活できるようになることや、周りの人たちとよりよい人間関係を築くことができるようになることを理解させる。一方で、そうありたいと思いながらも羞恥心や無関心、自分中心の考えや思慮不足などの心の弱さからなかなか実践できないことがあることにも気付かせる。そして、それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、明るく和やかな気持ちで生活したい、周りの人ともっと仲良くなりたいたい、相手の気持ちを考えるなどの心構えが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では、一枚絵資料「あいさつ」（学研教育みらい）を取り上げることにした。

この資料は、朝の学級の一場面を一枚絵に表したもので、学級のみんながにこやかに朝のあいさつをかわしている様子が、絵の中の子どもたちの笑顔などからよく伝わってくる内容である。

この資料を扱うに際し、一枚絵の状況の理解を深め、絵の中の学級の子どもたちの心情に十分に触れさせるために、一枚絵の状況に合わせた音声や映像を効果的に活用する。また、絵の中の子どもたちの立場に自分を置き換えて考えさせたり、子どもたちの体験場面を振り返らせたりして、そこでの心情と絵の中の子どもたちの心情とを重ね合わせて類推させることができるようにし、絵の中の子どもたちの心情に自我関与させる。

具体的には、まず一枚絵や一枚絵の状況に合わせた音声などから、朝のさわやかで明るい学級の雰囲気を感じるとともに、自分たちの学級の様子とくらべることを通して、みんなで明るいあいさつを交わすことができなかつた場面との比較から、あまり意識していなかつた心の弱さを見つめさせるとともに、心の弱さを見つめさせたことで意識される心の葛藤を追究させる。

さらに、心の葛藤を乗り越えるために、大切にしたいと思う意義・心構えを追究させる際、対話活動を通して、重点とする意義や心構えに迫ることができるようにする。また、授業の中で大切に感じたことを、具体的な姿に表してみることを通して、これからの自分の生き方について、具体的なイメージをもつことができるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などのよさを理解し、みんなが明るい気持ちで生活するために大切にしたいことを考えながら生活していこうとすることを目指す生き方について、実際の生活場面においても、積極的にかかわっていこうとする意欲につながるものであると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することにかかわる経験や、実践を阻む心の弱さ、実践を支える意義や心構えについての認識は、以下の通りである。

〔表1〕 気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作ができた場面(総反応数 64)とそのときの感情(総反応数 101)についての認識

場面	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
家族に対して	26	自分が気持ちよくなる	20	気持ちをこめられる	16
友達に対して	20	自分がうれしくなる	17	自分の心がきれいになる	15
近所の人に対して	11	相手にいやがられてたくない	16	相手を大切にできる	1
お世話になっている人に対して	7	相手が気持ちよくなる	16		

〔表2〕 実践を阻む心の弱さについての認識

(総反応数 76)

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
羞恥心(恥ずかしかった)	21	責任転嫁(その人が急いでいた)	11
無関心(忘れてしまっていた)	14	自己中心的な考え(言い出しにくいことがあった)	15
外への欲求(ほかにすることがあった)	12	恐怖心(相手が怖かった)	3

〔表3〕 実践を支える意義や心構えについての認識

(総反応数 132)

意義・心構え		反応数(人)	意義・心構え		反応数(人)	意義・心構え		反応数(人)
対自己	恥ずかしがらない	17	対他者	友達になれる	25	対集団・社会	みんなが笑顔になる	20
	心がきれいになる	14		感謝される	15		みんなが仲良くなる	3
	自分がうれしくなる	13		相手をよこばせたい	14			
				相手がすっきりする	11			

〔表1〕から、家族や友達に対して「自分が気持ちよくなる」「相手が気持ちよくなる」等の感情が多く、普段の生活の中で、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作のよさを感じながら努力しようとしていることがうかがえる。しかし、〔表2〕からわかるように、「恥ずかしい」「わすれてしまっていた」などの感情から、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作のよさを感じながらも行動に移すことができないことがあることにも気付いていることがわかる。但し、感じている弱さに偏りがあったり、そのことを弱さとしてとらえていなかったりする面も見られた。また〔表3〕から、「恥ずかしがらない」「心がきれいになる」「友達になれる」「みんなが笑顔になる」などの意義や心構えを感じている子どもが多いことがわかる。但し、全体的に対他者にかかわるものが多く、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作が自分にとってもよいことや、集団・社会にもかかわっていくことには、目が向けられていない子どもが多いことも分かる。

これらの実態から、自分の生き方とのかかわりを意識しながら追究することができるように、「明るく和やかな気持ちで生活できる」等の意義について感じさせるとともに、実践することができない背景にある心の弱さについても、普段の生活における体験活動との関連を図る中で、重点的に感じさせる必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって追究しようとする姿は見られるが、お互いの考えを聞き合い、そのことも生かしながら道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりすることができるまでには至っていない。そこで、友達の意見に対してどう考えるか、友達の意見を踏まえて考えると自分の考えがどのように変わるかなどを意識させながら追究させるような働きかけも具体化していく。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などのよさの実感を深める中で、子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作についての自分の思いや考えと実際の生活場面での心情との矛盾から、子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させる。

イ 絵の中の子どもたちの心情や心情の変化に十分に共感させるために、まず、朝の学級の一場面に焦点化し、映像や音声を通して、さわやかで明るい学級の雰囲気味わわせるようにする。その中で、子どもたちがあまり意識することができていない心の弱さをみつめさせ、そこに生まれる心の葛藤を追究させ、自分が大切にしたい意義や心構えについて追究させるようにする。

その際、重点とした指導内容にかかわる考えに着目させ、もし、あいさつをしなかったらどうなるかと考えさせたり、自らの体験場面での内面を振り返らせたりするような発問を通して、その時に生じる心の弱さや、そのことにより生じる葛藤を乗り越えた後のよさについて、対話活動を通してさらに深く広く追究させ、重点となる指導内容にかかわる意義や心構えに迫ることができるようにする。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活の中で生かしていくとする意欲を高めるために、授業を通して強く共感するようになった意義や心構えについて、これからの生活の中でどのようにかかわっていききたいかといった視点で、具体的な形で表現させ、自分のこれからの生き方について確かなイメージをもつことができる場を設定する。

3 本 時

(1) ねらい

ア 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することにかかわる自分自身の生き方を見つめ、自分自身のもつ心の葛藤を乗り越えて、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などのよさを理解し、みんなが明るい気持ちで生活するために大切にしたいことを考えながら生活していこうとする気持ちを高めることができる。

イ 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することにかかわる見方・考え方・感じ方を自らの体験場面での内面と重ね合わせて類推しながら深めたり、広げたりすることができる。

ウ 羞恥心や無関心などから、気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することができなかつたりすることに気付くとともに、気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などがお互いの気持ちをよくすることやお互いの気持ちを和やかにすることを理解し、これからの自分の生き方について、具体的なイメージをもつことができる。

(2) 本時の展開に当たって

よりよく生活場面を想起することができるようにするために、映像と音声を効果的に使った資料提示を行うようにする。また、重点とする指導内容に迫らせるために、対話を通して考えさせるとともに、自分の考えを具体的な形に表し、確かなイメージをもつことができるようにする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 気持ちのよいあいさつや言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することについて、考えていきたい問題に気付く。 	7	○ 切実な問題意識をもたせるために、あいさつすることに対するそれぞれの子どもの考えや思い、実際の自分の行動における心情を発表させ、知識として理解していることと、実際の生活場面での心情との矛盾から、考えていきたい問題に気付かせるようにする。
	2 一枚絵「あいさつ」を見て話し合う。 (1) 絵の中の子もたちの心情、心情の変化について感想をもち、発表する。 (2) 実際の生活場面から心の弱さや迷い、絵の中の子もたちの心の背景や大切にしている意義・心構えについて話し合う。 		12
見つめる	【意義】自分の気持ちがすっきりする→気持ちが和やかになる→相手もすっきりする→相手もなごやかになる→もっとなかよくなりたくなる→みんなが明るく楽しく生活できる 【心構え】明るく和やかな気持ちで生活したい、相手の気持ちを考える、周りの人たちともっと仲良くなりたいたい、礼儀正しい自分でいたい など (3) 今日学び取ったことを振り返り、自分と友達のことを比べて、感じたことや考えたことを発表し合う。 	14	⑥ 「自分たちの教室がこんな教室になるためには、どんな気持ちや考えが大切だと思いますか。」 ○ 道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりさせ、重点とする指導内容の要素の心構えにかかわる内容に迫らせるために、心構えを大切にできた学級の様子を想起させたり、「もし、大切にできなかったらどうだろうか。」と問いかけたりして、自分の考えをまとめていけるようにする。
	3 学習を振り返り、自分なりの考えをまとめる。 		10
見通す	4 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接することについて、教師の話を書く。	2	○ 子どもたちの課題が連続・発展し、実践へとつなげていくことができるようにするために、重点とする指導内容と関連した説話を行う。